

# ~Mirary soa~

マダガスカル通信  
第5号  
2022年12月13日

## ◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)  
隊次：2021年度4次隊 (2022/4～2024/4)  
職種：看護師  
派遣国：マダガスカル  
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



## ◎活動先の拠点・保健センターについて Vol.2

前回紹介させていただいた、拠点の保健センターについてまだまだ伝えきれないことがあったので、今回も第2弾として書かせていただきたいと思います、！

### ～保健センターの5S活動～

任地の保健センターは“5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)”に力を入れており、他の施設から見学に来る人がいるようなモデル施設になっています(ちなみに、5Sは日本から広まった概念だそうです！)。

スタッフは毎日帰宅前に部屋の掃除をし、週1回は全員で施設の**全体清掃の日**があります。そのお陰で施設内はいつも清潔に保たれています。

スタッフは、「5Sを取り入れるようになってからは、物品を整理・整頓をする癖がついた」「探し物が早く見つかるようになって無駄な時間がなくなった」と話しており、5Sの必要性を実感しているようです。



整理・整頓された棚



場所を示した標識



清掃チェックシート



週1回の全体清掃の日



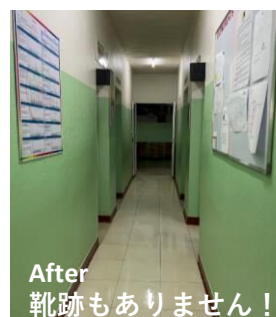
ON/OFFの表示があり  
分かりやすいです



何をやる部屋か表示があり  
分かりやすくなっています



全体清掃の日  
Before



After  
靴跡もありません！



書類が仕切りごとに  
整理整頓されています

## ◎協力隊20周年記念イベント開催！

今年はマダガスカルに協力隊が派遣されて20年の節目の年でした！そのため、20周年の「感謝」をテーマにJICA事務所や協力隊員、マダガスカル人の協力団体と一緒に首都でイベントを開催しました。

第1部の式典にはマダガスカルの**首相や農業大臣、その他政府高官の方々**が訪れ、テレビ局や新聞社も来場して想像を超えた規模での開催でした！！任地では“テレビで観たよ！”と仰ってくださる方もおり、日本や協力隊についてより知ってもらえる機会になったと思います。

首相からはボランティア派遣を拡大してほしいと、協力隊事業に前向きな声をいただきました。協力してくれる現地のマダガスカル人と一緒に、自分のできることを地道に実践し、協力隊の活動を更に広めていきたいと感じました。



第1部式典に来場された首相や配属先の方々と  
の記念撮影



隊員とマダガスカル人と  
“世界で一つだけの花”を合唱

## ～ステージ編～

第2部では、日本の踊り“**マツケンサンバ**”や“**ソーラン節**”を日本語を勉強しているマダガスカル人や隊員の任地の小学生たちと一緒に踊りました。また、マダガスカル人に馴染みのない“**ラジオ体操**”も楽しそうに真似してやっていました。

日本の歌“**上を向いて歩こう**”の歌詞の意味を教えると一緒に歌うことができ、音楽好きのマダガスカル人にも喜んでもらえました。

また空手を習っているマダガスカル人による**空手パフォーマンス**や、**お餅つきパフォーマンス**で日本の文化を直接感じてもらうことができました。



現地の人とマツケンサンバ



隊員による  
お餅つき



マダガスカルの子  
どもたちによる空手

## ～ブース編～

日本の文化・遊び体験や日本語教室、日本食販売、日本語クイズの展示など、各ブースで日本を知ってもらえるような趣向を凝らしたものでした。私は5Sブースを担当し、任地の保健センターの事例を紹介しました。

ちなみに、マダガスカルはアフリカの中で**日本語を勉強している人が2番目**に多い国だそうで(1番はエジプト)、日本に興味を持っている人が多くいます。街でも日本人と分かると、日本語で挨拶されたり日本語を教えてほしいと声を掛けられたりすることが多々あります。



日本語クイズ



日本文化体験



日本食・小物販売



5S紹介